

## 外国語教育の未来(あす)を拓く

—多言語教育とは何か、上智大学で考える—

開倫塾

塾長 林 明夫

**Q：上智大学へは何をするために行ったのですか。**

A：(林明夫：以下省略)3月2日に上智大学四谷キャンパスの中央図書館9階の会議室で開催された、「外国語教育の未来(あす)を拓く—多様な言語・現場の英知をつないで—」と題する英語を含む多言語教育のシンポジウムに参加するためです。

主催は上智大学国際言語情報研究所(所長は吉田研作先生)と一般社団法人日本外国語教育推進機構(JACTFL)で、全国からの200人もの参加者が午前10時から午後5時30分まで熱心に議論しました。

**Q：多言語教育とは何ですか。**

A：国際コミュニケーション言語としての英語の実用性・汎用性は際立っており、日本の外国語教育における英語教育の重要性は言うまでもありません。

しかし、世界には数千以上とも言われる言語が存在し、多種多様な文化が世界の隅々にまで息づいている事実を見落としてはならないのです。そこで、多様性をもった内容豊かな外国語教育を目指すのが多言語教育です。

その目的は、複雑で多様な現実と直に向き合って適切に関わり、社会を安定的に繁栄させること、その状況に柔軟に対応できる有為な人材を恒久的に育成することにあると言われています。

この多言語教育の実現のために多様な学会・団体が連携して2012年12月3日にできたのが、本シンポジウムを主催した日本外国語教育推進機構(Japan Council on the Teaching of Foreign Languages、略称JACTFL)です。

日本版Can Doリストに基づいた英語教育を含む多言語教育推進の有力な母体です。足利市英語教育推進プロジェクト会議の座長を1年間お務めになられた吉田研作先生のお勧めもあり、私も年会費3000円でwebから会員登録させて頂きました。

どなたでも会員になれますので、JACTFLで検索の上HPで活動内容を御覧ください。最新の英語を含む外国語教育の公開情報や研究会情報が御覧になれます。

**Q：日本の英語教育の現状はどうなっていますか。**

A：上智大学の吉田先生の御報告によりますと、2005年から行われているiBTというインターネットを用いたTOEFLでの英語を読む・書く・話す・聞くの4技能のテストの2011年の結果では、日本は総合点でカンボジアとラオスに次いでアジア30か国中の下から3番目の69点(1技能30

点、4技能で120点満点)でした。

一番の問題は、自分の意見をきちんと言う Speaking の能力が16点とアジアで一番低いこと。また、Writing の能力も18点とアジアで一番低いことです。

**Q：このような現状をどのように打破したらよいでしょうか。**

**A：**何事もものごとを成し遂げるには、目標設定が大事です。アジア30か国中で一番低いのが現実ならば、この現実を素直に認め、日本人にとっての英語を含む言語教育の目的を根本から考え直すことが大事かと私は考えます。

大学入試や高校入試に合格するというのはあくまでも英語学習の一つの結果であって、英語学習の目的にすべきではないと考えます。英語はコミュニケーションの手段であることを再認識し、英語を読むことができる・英語を聞き取ることができる・英語で書くことができる・英語で話すことができる、つまり英語でこのようなことができるという Can Do が大切だと私は考えます。様々な状況や場面で英語でコミュニケーションをすることができることを大事にすべきと考えます。

学校や学習塾、予備校、英会話学校などで英語を学習した結果、英語が嫌いになった学習者が一人でもいたら、その英語教育は失敗であると考えたほうがよいかもしれません。今後は、毎日の授業の結果4技能を少しずつでも向上させ、英語によるコミュニケーション能力を少しずつでも向上させることを、英語教育の目的にすべきと私は考えます。

本欄で何回も申し上げて恐縮ですが、人口の半数以上が25歳以下のインドでは、1か月の月謝が300ルピー(日本円では約500円)で全教科を英語で指導する低価格私立学校に通う小中高生が急増、都市部では6～7割に達すると伝えられています。インドの大学入試は文系も含め日本の数Ⅲまで必修で、数学は英語による完全証明の解答が求められます。直視すべきは、この低価格私立学校とアメリカの医師の半数・経営者の何割かがインド人であるという現実です。

英語による低価格私立学校は、グラミン銀行と同様、西アジアやアフリカにも急速に広がり、ICT教育とともに貧困の撲滅のためのBOPビジネスの潮流ともなりつつあります。

京都大学で半数の講義を英語によって行うのは、このような国際的背景も一因となっている極めてまっとうな判断と高く評価します。

**Q：学習塾・予備校・私立学校の経営者や先生方にお伝えしたいことは何ですか。**

**A：**上智大学では、英検協会と協力してCan Doリストに基づいた入学試験を数年後に行うようです。

また、学校教育でもCan Doリストに基づいた英語教育を行う準備が文科省で相当進んでいます。

NHKのラジオ・TVの英語講座ではCan Doリストに基づいて行う試みがなされ、4月からスタートするNHKラジオのスペイン語講座は日本で最も本格的に行われるCan Doリストに基づいた語学講座となります。

このCan Doリストは、ヨーロッパの「言語教育共通参照枠」を参考につくられたものであることがかなり知られてきました。

この英語を含む多言語教育の世界や日本の動きを、皆様も御自身の経営する学習塾・予備校・私立学校の教育の中に一日も早く取り入れることを御提案申し上げます。

アジア30か国中の最低でよいのか、インドの低価格私立学校で全科目を英語で学んでいる1学年1000万人単位の子どもたちと自分の教え子たちをどう交流させたらよいのかを考えるべき時期

がきたと思います。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：4月からスタートしたNHKラジオ・TVの英語講座、NHKラジオのスペイン語講座のテキストを今からでも入手し、語学教育の現実はどこまで進んでいるのかを実感して頂きたく希望いたします。

私は、松本享先生のNHKラジオ英会話、国弘正雄先生のNHK TV英会話中級で英語が大好きになりました。4月からは、NHKラジオの英会話とフランス語講座、スペイン語講座で3言語の学習に挑戦したく考えます。

皆様も是非、学習者の立場に立ってもう一度Can Doリストに基づいた語学学習に挑戦しませんか。

— 2013年3月15日林明夫記 —